

感染症ニュース

No.216 2023/04/21

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルスの感染者数の第8波は終息に向かっていたが、マスクの着用が原則として任意となる場面が増え、今月に入って微増に転換しており、今後、第9波がやってくる可能性が指摘されていて、その場合、感染者数は第8波を超えると予想されている。そのため、高齢者の重症化予防のための6回目のワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続は必要である。感染拡大を最小限にするために、今後も普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面では、マスクを着けることが推奨される。

インフルエンザ

A 香港型と思われるインフルエンザの流行は下火になってきたが、富山県内ではまだ学級閉鎖が報告されている。A 香港型は、感染力が特に強く、症状も激しい。過去2シーズン、全く流行がなかったため、たとえ毎年ワクチン接種をしても抗体価は低いと考えられ、感染し発症する可能性が高いので要注意。

感染性胃腸炎

ウイルス性胃腸炎が流行している。その代表であるノロウイルスにはアルコール消毒は無効なので、アルコールによる手指消毒を過信せず、石鹸による手洗いを徹底することも重要。気温が高くなる今後は、細菌による食中毒にも要注意。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多い。例年、秋から冬を通して春先にかけて流行する。再感染や再発例も多い。

RS ウイルス感染症

昨年は初夏から秋の初めにかけて流行したが、本来は夏の終わりから春先にかけて流行する感染症で、乾いた咳と熱が出る。生後数か月までの乳児が感染すると重症となり、呼吸困難に陥り、死に至ることもある。

アデノウイルス感染症 (プール熱、咽頭結膜熱)

急な発熱が数日続くが、比較的元気なことが特徴で、のどの痛み、眼の充血や目やにを伴うこともある。夏に流行しやすく、感染力が非常に強いので、要注意。